

4.4 情報発信と案内・運営等に関する施設整備

城山公園は、春の桜まつり、冬の雪まつりなどの飯山市を代表する行催事の開催の場として活用されています。このような場としての活用のほか、史実に関する情報発信や、情報を活かした歴史などの学習の場や機会を提供することも城跡公園の重要な役割です。

その役割を果たすために必要な施設の整備方針を整理します。

(1) 情報発信・案内拠点の配置

- 市民会館の移転に伴い、ギャラリーがなくなり、情報発信機能がゼロとなるため、飯山城の歴史や経緯について伝える発信スペースの確保が必要です。
- 一方で、ふるさと館でも城跡の案内を行っていることから役割区分を明確にする必要があるほか、西側に位置する現在の飲食提供施設の今後の位置付けも定める必要があります。
- このような条件と段階整備の方針に沿い、段階的に情報発信や案内拠点の充実を図る計画とします。
 - ・短期の整備：休憩・軽飲食（自動販売機設置）・ミニ資料館として現在の飲食提供施設の建築物を改修し、活用
 - ・中期：西館関連の建築物復元（西館門や西館の一部復元）と南大手門周辺の番所復元を想定していることから、これらの建築物に上記の機能移していく。

⇒検討事項4：
資料館・公園運営機能の配置
(16-51 ページ参照)

(2) サイン整備

- 発信すべき情報の内容を整理し、場所それぞれのもつ特性に応じ、園内、園外それぞれにおいて系統だった情報案内を行う必要があります。

○園内のサイン

次のような役割の区分に沿ったサインの配置を計画します。

(計画イメージ [16-52 ページ](#)参照)

- ・園名表示サイン：幹線道路から自動車移動中でもわかるレベルで園名を表示
- ・総合案内サイン：入口部に園内全体の施設配置などの案内を表示
- ・解説サイン：遺構それぞれの歴史やビューポイント等について説明を表示
- ・広場名称サイン：本丸、二ノ丸など各広場の名称表示
- ・施設誘導サイン：園路交差部や方向を明記すべき箇所への指導標

○園外のサイン

- ・高橋まゆみ人形館、寺めぐり遊歩道、飯山城跡の3つの拠点をつなぐ案内サインの整備
- ・現在のJR飯山駅、新幹線飯山駅からのまちなかの回遊利用をサポートする歩行者向けの案内サインの整備

資料館的機能・公園運営機能の配置の検討

(1) 検討の前提

- 仮に資料館を西館と関連付けて整備するとしても、西曲輪の広場利用を妨げないことが重要
- 心幸食の建築物は有効活用する(=当面、撤去は考えない)
- 本格的な食事提供機能は園外へ園内では軽飲食、休憩機能の提供を重視

(2) 二重櫓での情報発信・資料館機能の考え方

- 二重櫓はいずれも高標高の場所。冬季管理、施設運営を考えると、二重櫓内の資料蓄積や情報発信より、低標高の側に配置する施設で確保する方が効果的。
- 二重櫓は、往時の飯山城の「本物の実感」の象徴とすることが重要。
- 以上の観点から、説明パネル等の案内は行うとしても、本格的資料館としては整備しない方が妥当な選択であると考えられる。

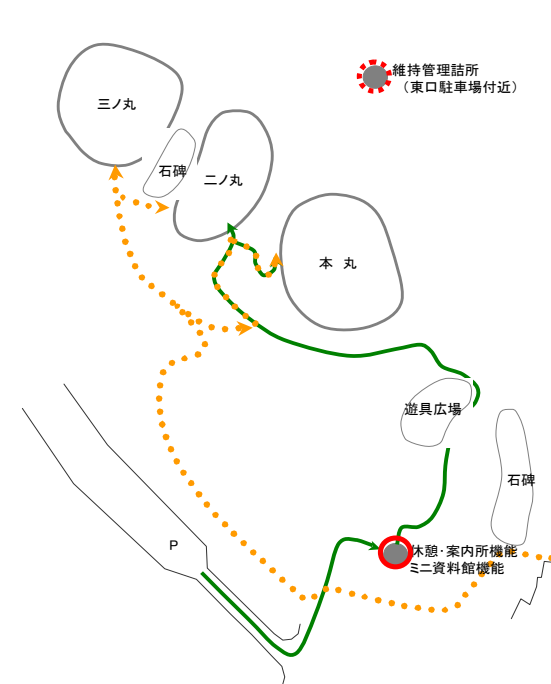
(3) ふるさと館との機能区分と段階整備

- 現時点では市民会館＝絵地図の展示、そのほかの資料や情報＝ふるさと館に集積されている。案内学習の機能はふるさと館に確保されている。
- この現状を踏まえ、園内での資料館的機能(資料収集、展示、学習機能)と案内・休憩場所提供機能など、公園の建築物に求められる機能の配分について複数の案を検討(下図表参照)。
- 1案はふるさと館のもつ展示・学習、資料収集機能については現状を維持する案(公園にはミニ資料館と休憩所機能があることを重視)
- 2案、2'案は展示・学習、資料収集機能の一部を公園内で分担する案
- 短期整備後のオープン段階では、1案のような運営が現実的と考えられる。整備が進む段階に応じて、2案、2'案としていく方法も可能。

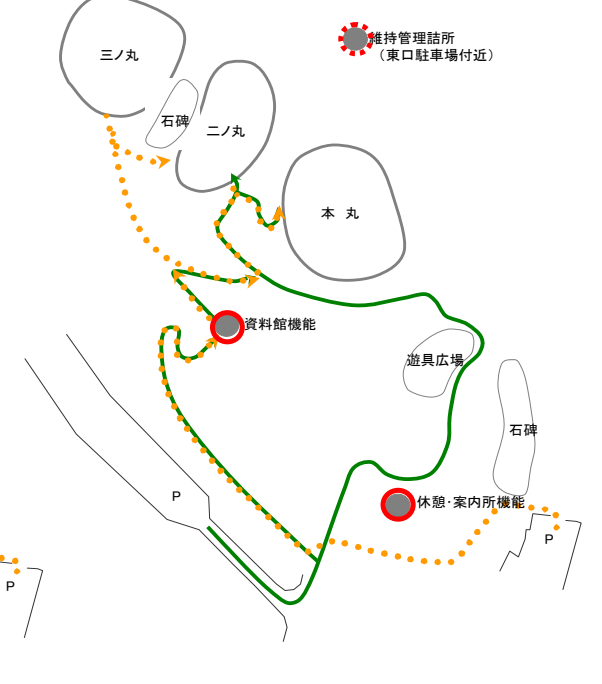
表4.4.1 西館の資料館としての復元と飲食提供施設(心幸食)の活用に関する検討

	1案	2案	2'案
西館	建物復元は行わない(行っても礎石表示程度)	西館門付近に一部復元し資料館機能【絵図面展示・歴史解説等】を併設	西館門付近に一部を復元。一部資料展示機能(主に三ノ丸～本丸にかけての紹介)を併設
心幸食(116㎡)	ミニ資料館兼休憩所【絵図面展示】	案内所・休憩所機能	撤去し、二ノ丸石碑の移設候補
大手門番所の扱い	将来的に管理事務所兼ミニ資料館(いずれ機能移転)	番所の礎石もしくは案内サイン表示程度	案内所機能のほか清掃などの維持管理の詰所も統合、資料庫・展示室【全体概説】を確保
ふるさと館との機能区分	案内・解説の人的蓄積はふるさと館でここには、市民会館ギャラリーを移設模型・展示による案内程度	ふるさと館の資料のうち、城に特化した案内・説明資料を移設	飯山城に関する資料や情報をできるだけ本施設に集約する考え方。1人専門の担当者の配置を検討。
案内・休憩所提供機能と資料館機能の関係	集約	一部分離	一部分離
実現に要する期間	短期で対応可能	短期でも対応可能 西館の復元に一定のコストを要すること、建築様式の把握や具体化に一定の時間を要することから1案より準備期間を見込む必要がある。 西曲輪広場整備後の需要やニーズを踏まえて整備する方法も考えられる。	短期では困難 大手門付近は敷地確保の面で未解決のエリアであるため、相応の調整や準備の期間が必要。
西館復元の位置と史実の関係	—	西館の長屋や屋形からは離れている	左同
課題	発信のスペースが十分に確保できない可能性がある。	管理機能と資料発信機能が分かれることで人員配置を分ける必要が生じ得る資料館と遺構を兼ねた場合の外観と内観と相違の違和感の発生	できるだけ大手門付近に集約できると運営上効率的であるが、敷地の最南のエリアであるため、駐車場も確保し、一定の利用が実現できる条件を整える必要がある。

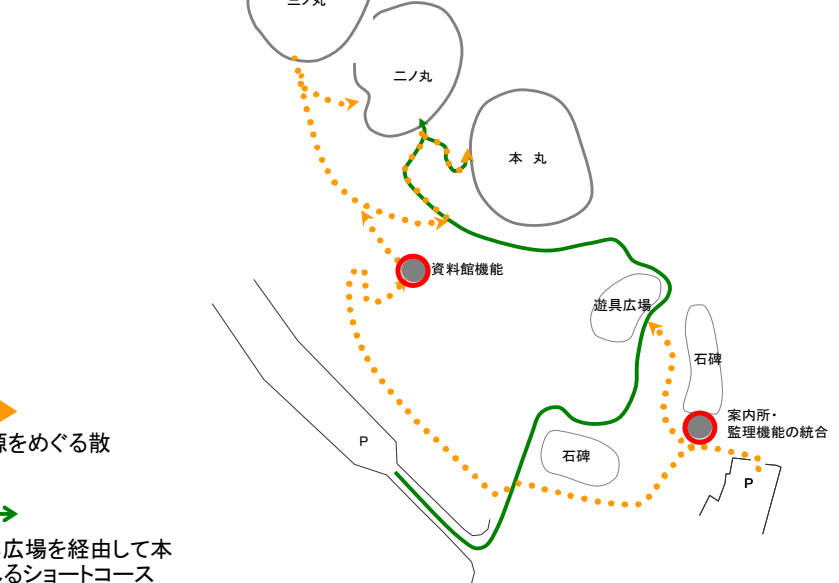
1案



2案



2'案



●●●●●●●●
歴史資源をめぐる散策コース

→
西口から広場を経由して本丸を訪れるショートコース

サイン配置検討資料

16-50ページに示したサインの種類に応じた役割区分踏まえ、参考となる他公園のサインの事例写真を用いて配置イメージを整理しました。

● 総合案内サイン



● 解説サイン



● 広場等名称サイン



● 誘導サイン



● 園名表示サイン



【解説・案内の候補】

- 1: 碑の案内
- 2: 南中門
- 3: 桜井戸
- 4: 三年坂
- 5: 二重櫓
- 6: ニノ丸御殿跡
- 7: 枳形
- 8: 不明門
- 9: 二重櫓
- 10: 北大手門跡 土塁
- 11: 北門跡
- 12: 三ヶ月堀跡
- 13: 坂下門跡 切岸
- 14: 扇坂

A: 眺望案内



● 園外から園内へ誘導を図るサイン



(飯山市内)

(松代)

駅前や駐車場等、離合集散の拠点となる場所は周辺の案内や関連情報を盛り込んだサインの設置の候補



(飯山市内)

(松代)

図4.4.2 公園内および周辺のサインの配置イメージ

園内の案内サイン配置の考え方

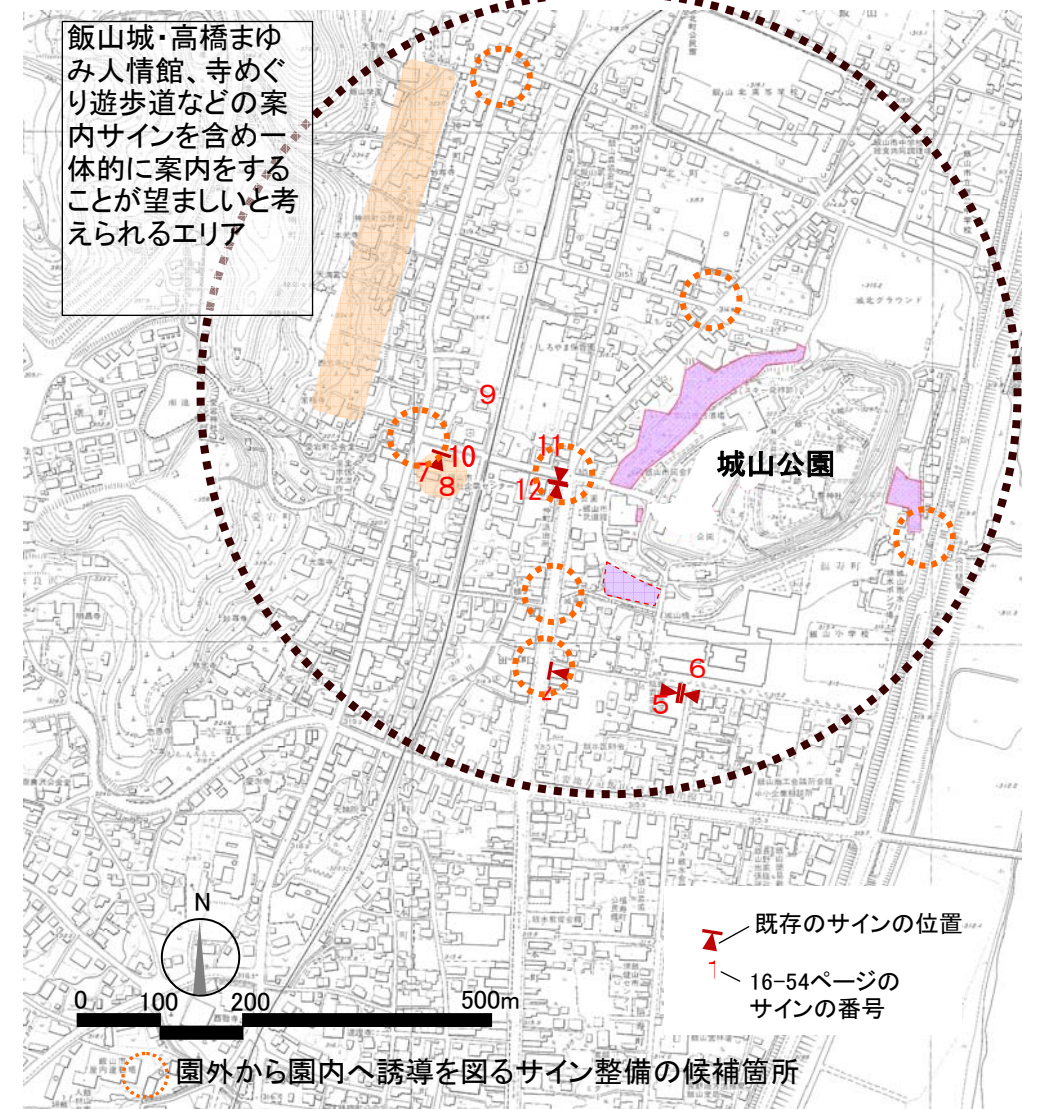
【全体の方針】

常設の案内サインは少なく、来訪者に飯山城の存在や歴史的価値が伝わりにくいことから、明確に伝えるためのサイン整備を計画。
切岸の曲輪で構成された城跡の歴史的な価値と調和するよう、木材、石材など自然の素材を用いたサインを検討。

【種類別配置の考え方】

- ① 園名表示サイン
 - ・入口部に配置。場所の条件に応じて大型のもの、柱状のものなど複数の様式の検討が必要。
 - ・幹線道路からは自動車移動中でもわかるレベルで園名を表示。
- ② 総合案内サイン
 - ・駐車場、入口部に、園内全体の施設配置、歴史的経緯などの案内を表示。
 - ・場所によっては、園名と一体での表示方法も考えられる。
- ③ 解説サイン
 - ・遺構それぞれの歴史やビューポイント等について説明を表示
- ④ 広場名称サイン
 - ・本丸、二ノ丸など各広場の名称を門からの入口部分に設置
- ⑤ 施設誘導サイン
 - ・園路交差部や方向を明記すべき箇所で、目的とする施設へ誘導する指導標を設置。

【補足】城山公園周辺での案内のイメージ



飯山城・高橋まゆみ人情館、寺めぐり遊歩道などの案内サインを含め一体的に案内をすることが望ましいと考えられるエリア

▲ 既存のサインの位置
↑ 16-54ページのサインの番号

○ 園外から園内へ誘導を図るサイン整備の候補箇所

【飯山城跡内サイン位置現況図】



【飯山城跡周辺案内サイン位置現況図】

